柔らかな温もりと炎が「癒し」を感じさせてくれます。

水と緑のふるさと寄付金を活用

役場に薪ストーブを設置

２月８日、役場の玄関に薪ストーブを設置しました。環境にやさしい点と、間伐材の利用が森林資源の循環利用につながるものとして導入を決めました。ストーブは長野県内業者が製造したもので、火力の強いカラマツなどの針葉樹や廃材も燃やせる頑丈なものです。設置費用（２０万７千円）は、水と緑のふるさと基金の中の「自然エネルギーを活用する事業」にお寄せいただいた寄付金を活用しました。

地域を挙げた観光地づくり

山田桂一郎さん講演会

２月４日、保健センターで「地域を挙げた観光地づくり」について講演いただきました。王滝村観光再生協議会が主催したもので観光関係者や住民の方など５０名が参加しました。

観光カリスマ百選にも選ばれた山田先生

村有林の育樹作業を行いました

東郷町議員との交流会

４月１１日、東郷町から１８名が来村され、王滝村議員や村長、村職員などと一緒に育樹作業を行いました。

王滝村を会場に開催

御嶽山麓交流会

３月４日、木曽町三岳と開田高原のみなさんとの交流会が開催されました。

増田参事　2年間ありがとうございました

王滝村のみなさまへ

王滝村役場に二年間勤務し、その間上条に住まわせていただきました増田です。大変お世話様になり、ありがとうございました。

この間、そして王滝を離れる今、王滝村の良さをつくづく感じています。

御嶽山の気高い雄姿は言うに及ばす、王滝川や瀬戸川、ウグイ川の清流、煙るような芽吹きを見せる山々の緑、美味しく体にいいに違いない王滝食・・・と、私には新鮮な驚きとしみじみとした愛着を感じさせずにはいられないものに溢れていました。「御嶽学」の勉強会に不肖の生徒ながら出させていただいたことも有難い経験でした。

こうした自然や歴史・文化の素晴らしさは、王滝を訪れる誰もが感じ、口にすることです。それほど素晴らしい「宝」に恵まれているところだと思います。しかし当地に住まわせていただいた者として、王滝村ならではの一層の「本当の宝」は、暮らしておられる「人」でありその皆さんの「情」であると痛感しております。日常のさりげない挨拶、近所やお互いに対する自然な気遣いや助け合い、村づくりへの参加・・・文字には巧く表せない「絆」が王滝村の力であり、それを感じることが王滝村に暮らせることの喜びの源でもありました。

王滝村は「財政的に厳しい村」として報道されることがしばしばありました。「破綻」といった言葉で表されることさえありました。しかし、私が拝見する限り、もちろん厳しい状況ではありますが「破綻」はしておらず、日本一と言えるほど財政の立て直しに努力している村と評価するのが正しいと思います。そしてそう遠くない将来「自らの判断と努力によって財政を立て直した希有な村」として賞賛とともに注目を浴びる日が来るでしょう。その時には財政再建と同時に、地域の宝を大切にし、さらに輝けるもとして村づくりを進めている村として受け止められることと確信しております。

それを成し遂げられたのは（成し遂げつつあるのは）、ひとえに村民の皆様のご努力によるところであることは言うまでもございません。改めて心より敬意を表させていただきます。

王滝村に住み、役場の皆様や地域の皆様と一緒にこの時期の村づくりに参加させていただいた経験は、お知り合いになれた方々の面影とともに、掛け替えのない私の「宝」であります。今後とも、文字通り第二のふるさととして王滝にやって来たいと思っております。どうぞ、引き続きご厚情を賜りますようお願いいたします。

末筆になりましたが、皆様の御健康と益々のご発展を祈念申し上げます。

ありがとうございました。

増田　隆志

▼増田さんは4月より、ご自宅（山ノ内町）から近い北信地方事務所の地域政策課長として勤務されています。

消防団新役員と編成式

平成２０年度王滝村消防団編成式が４月１日、王滝村公民館で行われました。

式では、４年目となる島崎団長から、２人の方へ退団辞令が交付されました。次に新役員や新入団員に辞令が交付されました。

長年消防にご尽力いただいた退団者の方と消防団の役員をご紹介します。

（順不同、敬称略）

退団者へ辞令の交付

○平成２０年度王滝村消防団役員

▼団長：島崎　勇（木曽消防協会副会長）

▼副団長：田代　洋次　▼副団長：樋　秀幸　▼副団長：丸山　文広（総務担当）

▼ラッパ隊長：森本　克則　▼ラッパ副隊長：橋本　悟志　▼副本部長：中越　敏宏

▼第１分団長：吉田　広史　▼第１副分団長：栖村　正博　▼第１副分団長：正澤　功

▼第２分団長：田島　勝之　▼第２副分団長：森　健一　▼第２副分団長：下村　邦之

▼消防主任：高田　慎一

○退団者　（２名）▼巾　茂幸（副団長）　▼大倉　修（班長）

○新入団員（１名）▼第１分団：神永　岳彦

○全団員　７６名（内女性団員５名）

小澤 芳夫 駐在

４月から新しい駐在さんに

伊那谷の北端、辰野町で生まれ育ちました。５年余り東京で過ごしていましたが、当時東京大震災が予想されていたことから学友に「お前たちの骨は俺が拾ってやる。」と別れの言葉を残し、長野県の自動車販売会社へ入社しました。

ある日、車を警察の人に販売に行くと「警察官試験を受けてくれたら購入を考える」との甘い言葉で受験しました。そして現在に至っています。

警察官となり、大町署、豊科署、阿南署、松本署、伊那署、長野中央署、安曇野署と勤務して当地木曽署に来ました。

現在、単身で王滝村に住んでいます。家族は妻と２人の娘と１人の息子がいます。

私は、我慢強く何事も遣り遂げる人間だと思いますが、妻は「頑固で短気だ」と言います。会って話しをしてみて妻が正しいか、私が正しいか判断してください。

釣りと山歩きが好きで、少しだけ山野草の知識がありますので好きな方は声をかけてください。

退職まであと２年ですので、この地が最後となります。精一杯、駐在としての仕事を頑張ってやっていきますので、皆様のご協力をお願いします。

学校の交通安全教室にて

編集後記

３月に信大人文学部の山本英二准教授らの研究者グループが、王滝村の古文書調査について発表をしました。

その中で、王滝村は江戸時代の行政区にはじまり、１８８９年（明治22年）の市町村制施行や昭和、平成の大合併でも合併を経験していない「日本で１番古い村ではないか」との報告がありました。

平成の大合併で長野県においては村の数が67から37に減少しました。全国では村がない県は13県、村が一つだけという府県は11府県もあります。

これから合併がさらに進んでいけば、『村』自体が地域ブランドになる時代が来るかもしれませんね。

発行／編集／印刷　王滝村役場 総務課　〒397-0201 長野県木曽郡王滝村3623
TEL 0264(48)2001 FAX 0264(48)2172 Email:otakivil@vill.otaki.nagano.jp ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ www.vill.otaki.nagano.jp